

オーブン カレッジ

11月15日、中国の四川省巴中市南江県で2021年に発見された北魏時代の石仏に地元住民がペンキで色を塗ってしまったというニュースが報じられた。この石仏は、文化財指定はされていないが、保存状態が良く、学術的にも価値が高い作品として保護対象となっており、覆い屋根や監視カメラも設置されていたという。地元住民が石仏にペンキを塗った理由は、いたずらではなく、信仰心であった。写真を見ると、ペンキで汚した状態ではなく、肌や着衣など仏像の部位ごとに色が塗り分けられている。

文化財が持つ情報を守る

年にスペインの教会の柱に描かれたイエス・キリストのフレスコ画が教会の維持活動に関わっていた女性の修復によって大きく改変された事例や、18年に同じスペインの別の教会で聖ジョージの木彫像を美術教師が鮮やかに塗り直した事例がある。「サルのキリスト」とやゆされた前者は、インターネットを通して世界中で話題を呼び、その絵を見るために教会には多くの観光客が集まり、Tシャツやカップなどのグッズが販売されるなど異例の展開を見せた。

中国の事例は、信仰心から仏像を綺麗に荘厳しようとしたものであり、修復の専門家ではない人物が作業を行ったことによるスペインの事例とは背景が異なるが、現状維持が望まれる作

会が多いが、調査段階で既に修理がされていて当初の姿がわからないくらい様相が変わってしまったことや、調査後に修理が行われて自分が調べた時と全く異なる姿に変わってしまったことを何度も経験している。

寺院の改修が行われる場合には、建物の修繕や再建だけではなく、仏像を含めた堂内の器物も綺麗にされることが多い。文化財指定を受けている仏像の場合、修理方針を文化財保護審議会などで検討した上で作業が行われるが、未指定の仏像の場合には所蔵者の判断で修理が行われることになる。修理で上塗りがされたり、表面の処理が剥ぎ取られたりすると、作品に残されているさまざまな情報が失われることになる。指定文化財になる可能性を持つような仏像であるならば、こうした修理が行われる前に何とか作品が持つ情報の保存を図りたい。

まず早めの 現状把握を

新たな手が加えられることで絵画や彫刻が損なわれたニュースは、ヨーロッパの教会でもある。2012



見田 隆鑑
准教授
文化情報学部
山女学園大

品の姿を大きく変えてしまった点、新たな彩色を加えることで失われるものに対する認識が乏しかった点は共通する。ただ、宗教美術の場合、難しい部分もある。仏像は本来、綺麗に荘厳されるべき対象であり、その姿が破損していたり、金箔や彩色が剥がれ落ちたりしている状態は信仰という観点からは望ましい状態ではないからである。

筆者は、愛知県、岐阜県を中心に仏像を調査する機会が多いが、調査段階で既に修理がされていて当初の姿がわからないくらい様相が変わってしまったことや、調査後に修理が行われて自分が調べた時と全く異なる姿に変わってしまったことを何度も経験している。

寺院の改修が行われる場合には、建物の修繕や再建だけではなく、仏像を含めた堂内の器物も綺麗にされることが多い。文化財指定を受けている仏像の場合、修理方針を文化財保護審議会などで検討した上で作業が行われるが、未指定の仏像の場合には所蔵者の判断で修理が行われることになる。修理で上塗りがされたり、表面の処理が剥ぎ取られたりすると、作品に残されているさまざまな情報が失われることになる。指定文化財になる可能性を持つような仏像であるならば、こうした修理が行われる前に何とか作品が持つ情報の保存を図りたい。

みた・たかあき 美術史学。
名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。博士(文学)。